

和算算額の伝統復活

— 優秀算額絵馬を三井寺に 永年展示 —

三井寺 (園城寺)
同志社中学校
立命館守山中学校
いいとこネットワーク

京滋 SANGAKU 対決 同志社中学校 (京都) VS 立命館守山中学校 (滋賀)

開催日時 : 2018 年 3 月 11 日 (日曜日) AM10:00~AM12:30

会場 : 滋賀県大津市 三井寺金堂 (国宝)

※ 東日本大震災から 6 年を迎えます。式典開会にあたり、「慰霊と希望のあかり」を捧げます。

日本独自の伝統文化の復活として、2013 年 3 月、185 年ぶりに三井寺で算額奉納が復活。その復活には、数学に「和算」を取り入れていた同志社中学校が名乗りをあげました。

2015 年 11 月より同志社中学校と立命館守山中学校が算額奉納をした後、両校による算額対決が行われており、今年で 7 回目のイベントとなります。

両校の作品の中から選ばれた 8 作品が、今年も観音堂に永久的に展示されます。江戸時代から三井寺に残る約 200 年前の算額とともに、現代の算額が本年も永遠に残ることになります。



【(三井寺観音堂に収められている江戸時代の算額 (和算の書かれた絵馬))】

約 200 年前に奉納された算額に書かれた和算の問題は、現代の我々も頭を悩ませるような高度な問題もあります。今回、永久展示される和算の問題も、100 年経った未来の人々の頭を悩ませることになるのでしょうか・・・

私たちは和算・算額という文化を広く参加を呼びかけていきたい。そこに、次の意図がある。

- (1) 和算という日本独自の文化の紹介、
- (2) 算額奉納という問題を解けること・作れることに対する感謝の念の表現
- (3) 未来の人々への挑戦という、縦の時間軸へのつながり、歴史を体感してほしい。

今に生きる私たちが、江戸時代の人々と算額絵馬を通してつながり、そして、未来の人々ともつながる。想像するとワクワクするのではないだろうか。

<同志社中学 園田毅先生のコメント>

私たちが中学生の皆さんと和算を学び始めて 12 年になります。

和算は、関孝和や建部賢弘など江戸時代の有名な数学者を輩出しました。「大日本沿海輿地全図」を作成した伊能忠敬も、和算を駆使して正確な測量を行いました。

また、ときの支配階級のみならず、庶民が高い数学力を身につけ、ときに年貢軽減交渉など自ら生き抜くために数学が使われたという点は、後世に伝えていきたい日本の歴史だと考えています。

今年も中学 3 年生が自ら問題（表面）と解答（裏面）を考え、算額絵馬を作りました。算額絵馬を三井寺で多くの皆さまにご紹介できることをうれしく思っております。ぜひ手に取ってご覧くださいと幸いです。

<立命館守山中学校 長谷川先生のコメント>

江戸時代、盛んになった「算額」は、もともとの目的は難問を解いた喜びを神仏に感謝するというものだったようですが、これが社寺に掲げられたおかげで、その額の問題を見た他人もその問題に挑戦し、村人同士で解き合うという文化にまで発展していくという展開をしてゆきました。それは、当時全国の寺子屋で数学教科書として用いられていた「塵劫記」の補遺の形で類題が付け加えられ、それを解くことの喜びが全国で広まっていったことと無縁では無かったことでしょう。

数学教育をただ与えられた問題を解く能力を身につけさせることにとどめることなく、新たな問題を生み出し、それを解く喜びを伴ったものとしていくために、本校でも和算の「文化」を伝える授業の一環として、これからも算額作りと奉納の取り組みをしてゆきたいと考えています。

三井寺では、和算を記載した絵馬（文政 11 年（1828 年）の「算額」が観音堂に残っており、江戸時代の庶民の和算への関心の高さを物語っている。そこには問題が 5 題あり、それぞれ高校の数学レベルの高度なもので、学生達が数百年も前の義務教育も無い時代のレベルの高さに驚かされる。当時、算額は問題が解けたことへの感謝と学問成就の願いを込めて奉納されたようだ。

明治以降、西洋数学が導入され和算の伝統は廃れたが、神仏への感謝や祈りの心を象徴する算額は、日本の大切な文化といえる。その文化に触れることで、算額という文化が子ども達に新鮮な感じを与えた事は事実だ。

三井寺と京都・滋賀の中学校は、この文化を守ろうとする奉納に取り組んでいる。ぜひこの文化を埋もれさせないためにも、今後、他の地域の学校にも参加を求めている。

<三井寺 福家執事長のコメント>

算額を通してはじまった同志社中学校の皆さんとのご縁も早六年目を迎えることになりました。

これまで奉納いただいた作品を拝見しておりますと、皆さん一人一人が自由で柔軟な発想力を発揮された力作揃いで感心させられるばかりです。

どうか皆さんには、これからも西洋とは由来を異にする和算（算額）を機縁に日本人が独自に培ってきた自然や科学に対する考え方や姿勢を学ばれ、21世紀を担う皆さん自身の「心の窓」の一つに付け加えていただければ幸いです。

同志社中学校と立命館守山中学の昨年優秀絵馬を三井寺（みいでら）に永年奉納

昨年は2017年度の優秀作品（他8点が今回永年奉納されました。）

※ 観音堂に奉納された作品以外の作品は、4月より釈迦堂に来年の大会まで展示させていただきます。

同志社中学校3年生全校最優秀賞作品



立命館守山中学校3年生全校最優秀賞作品



<算額絵馬優秀作品の永年奉納式典>

○2018年度算額絵馬永年奉納式展

開催日時 : 2018年3月11日(日) 午前10時~12時30分

三井寺観音堂にて、昨年の最優秀賞作品、同志社中学校の4作品と立命館守山中学校の4作品、合計8作品を、三井寺の観音堂に残る文政11年(1828年)の算額と同じところに永久展示します。

今回、金堂にて展示されるのは、同志社中学校と立命館守山中学校の約280枚です。

12時30分より、一般では入ることの出来ない国宝の勸学院客殿とそこにある重要文化財の襖絵(ふすまえ)も三井寺文化財収蔵庫にて特別拝観致させていただきます。とくに今年は、国宝の勸学院客殿の中にあつた「狩野光信筆」の屋根葺替の修復現場も見学させていただきます。

<お問合せ先>

- ・算額展企画担当： いいとこネットワーク小川仁玄（おがわまさひろ） 090-1954-5296
京の匠株式会社：京都市下京区下魚棚4丁目365 TEL：075-201-1759
- ・三井寺（園城寺）：執事長 福家俊彦（ふけとしひこ）様
園城寺事務所：大津市園城寺町246 TEL077-522-2238
- ・同志社中学校：数学科 園田毅（そのだつよし）様
京都市左京区宝ヶ池 TEL：075-781-7253
- ・立命館守山中学校：広報担当 中学教頭 箭内健（やないたけし）様
数学科 長谷川幹（はせがわつよし）様
滋賀県守山市三宅町250番地 TEL：077-582-8000